

# 庶路川筋のアイヌ語地名

## 第6回

### ○オニヨップ(川)

「オニヨップ」は、上庶路中央で庶路川から東に分かれて北上する川の名前で、この川に沿って阿寒町につながる町道上庶路阿寒線が通っています。

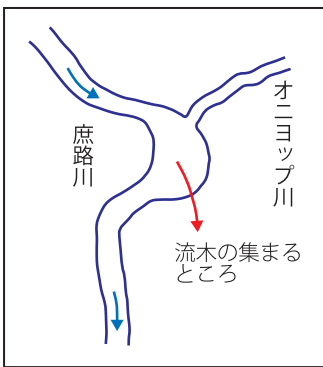
その意味について、白糠地名研究会は「オ(川尻)・ニ(木)・オ(集まる)・プ(ところ)」としていますが、旧『白糠町史』の「アイヌ語地名解」では「川尻に樹木の多い川」、『北海道蝦夷語地名解』(永田方正著)は「樹木多キ川尻」と訳しています。

### ■「ごちや」がある様子

白糠地名研究会が「集まる」と訳している「オ」について、言語学者の知里真志保博士は、地名に出てくる「オ」は、古くは「ごちやごちやある」「うようよいる」という意味だったと述べています。

「川尻に樹木の多い川」「樹木多キ川尻」という訳は、木がごちやごちやある様子から「多い」という言い方になったと考えられますが、道東地方のアイヌ語地名を現地調査した鎌田正信の「川尻のすぐ下手で本流(庶路川)は大きくふくらみ、カーブをえがき流れている。そのふくらみにいつも流木がたまっていたのであった」という説明からも「木が集まる川尻」と訳す方が分かりやすいかもしれません。

オニヨップの見取図



参考／道東地方のアイヌ語地名

### ○クツシヨナイ(クシヨナイ川)

「クツシヨナイ」は、オニヨップ川から庶路川を1・5キロメートルほど上ったところで西に分かれています。川です。「クツ(崖)・ソ(滝)・ナイ(沢)」という意味があり、川に面した崖に滝があることを表しています。

### ■崖を表す「クツ」と「ピラ」

崖を表すアイヌ語として、クツシヨナイの「クツ」と茶路川筋にあるアツタピラ(オヒヨウが生えている崖)、ピラウンナイ(崖が川にそって続いている)の「ピラ」があり、知里博士は「クツ」を「岩層のあらわれている崖。帯

状に岩のあらわれている崖」、「ピラ」を「土がくずれて地肌のあらわれている崖」と説明しています。

地名研究者の山田秀三は、鶴居村と標茶町の境を流れる「久著呂川」に関して、サコロペ伝承者であった八重九郎氏の「クチヨロ川の奥のシクチヨロに崖があつて巨鳥が棲んでいて、クツコロカムイ(崖の神)と呼ばれていた。クチヨロはそれから出た名である」という話を紹介しています。

【参考・引用】『知里真志保著作集4』「地名アイヌ語小辞典」・『道東地方のアイヌ語地名』鎌田正信著・『北海道の地名』山田秀三著

